

## 都城市立志和池中学校の学力向上への取組

### 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

各教科の平均到達度が県の平均値を上回ったのは国語科のみであった。特に、数学科と理科は大きく下回っており、すべての観点項目や領域においても県平均値を大きく下回っていた。なかでも数学科では、「数学的な見方・考え方」の観点項目、関数に関わる領域において、理科では、「実験・観察の技能・表現」に関する内容の通過率が非常に低かった。これらの結果から、各教科とも、生徒一人一人の結果分析を行い、基礎的・基本的な内容を定着させるためのきめ細かな授業や目的意識をもたせる授業の工夫改善の必要性がはっきりした。

#### (2) 意識調査結果からの課題

学力向上のために大切である「学びの基礎力」は全体的には県平均値を上回っていた。しかし、基礎的な生活習慣である「学習のけじめ」や「授業を受ける姿勢」などの「学びを律する力」を身につけるための指導の在り方の必要性、さらに、家庭と連携して生徒の教育に当たる手立ての必要性もはっきりした。

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

教師の指導力向上と、生徒の基本的な学習態度の育成が重要であると捉え、それに向けた取組を進めた。

教師の指導力向上については、主題研究とそれぞれの個人研究で、生徒の基本的学習態度の育成については、日々の授業実践、生徒会学習委員会の取組を中心に進めた。

#### (2) 教育課程内の取組

##### ① 授業における取組

###### ○ 到達目標設定による学習指導過程の展開

1時間ごとの授業において、その時間の到達目標を設定し、その達成に向けて学習過程を編成していった。それによって、教師自身もその時間においてすべての生徒に身に付けさせたい力が具体的に、効果的な学習指導過程を工夫することができた。一方、生徒にとってもその時間のねらいが明確になり、自分はその時間の内容を理解できたかどうか把握しやすくなった。

また、各時間の中で到達目標の達成状況を評価する場面を設定し、生徒の達成状況を把握して、その後の指導に生かすようにした。

###### ○ 生徒の達成度状況把握のための「単元テスト」や「生徒の自己評価」の実施

生徒の達成状況を的確に把握するために、単元テストや生徒の自己評価を実施した。また、その結果はその後の指導に生かし、指導と評価の一体化を図った。

###### ○ 数学科における少人数授業習熟別指導の充実

少人数指導に係る加配の入った数学科で、学習集団の特性に応じた学習指導過程の工夫など少人数指導の充実を図った。

また、それぞれのコースの進度をおおむね合わせることで、いずれかの教師が出張等の際には、2つのコースを合同で授業を行い、自習がないように配慮した。

#### (3) 教育課程外の取組

##### ① 授業以外での取組

###### ○ 志学の時間（朝自習）を利用した読書活動の充実

朝自習の時間に読書を中心に行うことで、生徒の読解力を高めるようにした。また、学期に1回程度自分の読んだ本の中でおもしろいものを紹介する取組も行い、読書に対する意欲を高めた。

○ 「計算力や漢字コンクール」の実施

学期ごとに「計算力コンクール」「漢字コンクール」「英単語コンクール」を実施してきた。取組は生徒会が主体となり、各学級でスタディータイム（後記）を利用するなどして、定着を図ってきた。コンクールの結果は各学級の平均点で競い、基準点以上の学級には、すべて表彰してきた。

○ スタディータイムの設定

帰りの会の前に10分間時間を設定し、補充学習を中心に学習を展開した。

この時間の学習教科は、2週間単位で設定しており、同じような内容を繰り返し学習することで定着を図ってきた。2週間の最後の日には定着の様子を見る小テストを実施し、その後の指導の参考にしてきた。

○ 放課後を利用した個別指導の実施

生徒の達成状況をいろんな場面で評価し、その後の指導に生かしてきたが、どうしても授業等（スタディータイムでプリントに取り組む生徒）だけで対応できない生徒がいた。そうした生徒に対しては、放課後の個別指導で対応してきた。

## ② 職員研修

授業研究を中心においた主題研究に取り組んできた。しかし本校では、教科担当が一人しかいない教科もあり、教科ごとでの研究では深めることが難しい。そこで、教科の枠を取り払い、お互いに授業を見て協議をすることで授業力の向上を図ってきた。全教諭が研究授業を行い、それぞれが工夫した基礎基本定着のための手立てや基本的な学習態度の育成のための手立てについて研究をすすめた。本年度は、板書や発問に視点を絞って、互いに授業力向上を目指して高めあっている。

## ③ 一人一研究

教師一人一人が学力向上に向けた研究主題及び授業改善の具体的な取組を設定し、個人研究に取り組んできた。取組の結果は論文にまとめ、全教諭が都城市の教育研究論文に応募した。

## ④ 学習態度徹底週間

基本的な学習態度の確立のために、指導週間を設定してきた。それぞれの月の重点項目も決め、各教室に掲示して意識化を図ってきた。

## (4) 保護者・家庭・地域との連携

### ① 家庭学習の手引き

「家庭学習の手引き」を作成し、全生徒に配付している。またその内容については、年度当初に全校生徒に効果的な活用について具体的に指導した。

### ② 学級懇談の活用

参観日等で、生徒の実態を具体的に話し、一人一人の生徒に応じた学習方法など、家庭学習の必要性について理解を深め、協力を依頼してきた。

## 3 成果と課題（今後の取組を含む）

○ 昨年度の取組がそれぞれ効果を現し、スタディータイムや、学習態度徹底週間については本年度の教育課程の中に位置づけをして継続的に取組を進めている。

● それぞれの取組をより効果的に行うための、内容や方法の充実を図る必要がある。

● 取組の中で、保護者・家庭・地域との連携の部分が他の取組に比べて弱かった。本年度、志和池地区が「地域教育システム創造」実践モデル事業の県指定を受けており、この事業とも連携し、学力向上のみでなく、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成に向けて努力していきたい。